

にじゅうまるプロジェクト年次大会 記念フォーラム



<冒頭説明>

三菱UFJリサーチ&コンサルティングは、国際自然保護連合（IUCN）日本委員会と共催し、2014年2月15、16日に大阪府立大学I-siteなんばにおいて、わが国の生物多様性保全の主流化を進める団体の連携を促す「第1回にじゅうまるプロジェクトパートナーズ会合（COP1）」を開催しました。本会合の一部において、国際的な自然資本、生物多様性保全の動きをリードされてきたジョナサン・ヒュー氏（IUCN地域理事（西欧）スコットランドワイルドライフトラスト）と、パヴァン・スクデフ氏（コンサベーションインターナショナル理事）を迎え、自然資本をテーマとした記念フォーラムを開催しました。本記念フォーラムは、わが国の生物多様性保全の取り組みを主流化するにあたって極めて重要な報告であるため、ここに講演録を採録しました。なお、紙面の都合から、講演録については、第1部と第2部の一部（パネルディスカッションの部分を除く）とさせていただきます。また、紙面に合わせて、講演内容を翻訳するにあたり、一部を省略しております。

第1部

開会挨拶 後援団体挨拶 趣旨説明

- 開会挨拶……………国際自然保護連合（IUCN）日本委員会 会長 吉田正人 氏
■後援団体挨拶……三菱UFJリサーチ&コンサルティング 代表取締役社長 藤井秀延 氏
■趣旨説明……………にじゅうまるプロジェクト事務局 道家哲平 氏
司会 兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員 橋本佳延 氏

【橋本】 それでは定刻を過ぎましたので、ただいまから、にじゅうまるプロジェクトパートナーズ会合（にじゅうまるCOP1）記念フォーラムを開催いたします。本日のフォーラムは、IUCN——国際自然保護連合日本委員会が主催し、プログラム表紙に記載されています20の団体の共催、協力、後援により開催しております。申し遅れましたが、本日の記念フォーラム司会進行を務めます、兵庫県立人と自然の博物館の橋本です。よろしくお願いいたします。

それでは開会にあたり、国際自然保護連合日本委員会会長の吉田正人より一言ご挨拶申し上げます。よろしくお願いいたします。



■開会挨拶

【吉田】 皆さん、こんにちは。ご紹介いただきましたIUCN日本委員会の吉田でございます。本日は、この「第1回にじゅうまるプロジェクトパートナーズ会合」および午後開催いたしました記念フォーラムにご参加いただきまして、まことにありがとうございます。

IUCN日本委員会——国際自然保護連合日本委員会と申しますが、1980年にIUCNと、それからWWFとUNEP（国連環境計画）によって、世界環境保全戦略——ワールド・コンサベーション・ストラテジー（world conservation strategy）が発表され、そのときにIUCNの会員になっていた数団体が中心になってシンポジウムを開催したことがきっかけになって設立されました。現在、IUCN日本委員会に所属している団体は、NGOが20団体、そして政府機関から環境省、それから国家会員として窓口である外務省、計22団体から成っております。アジアの国内委員会として一番大きなもののひとつであると思います。所属団体の目標というのは、野生生物の保護から保護地域の拡大ということまでいろいろ、さまざまな問題に取り組んでいますが、いずれも生物の多様性の保全と持続可能な利用という点で一致しております。

さて、「にじゅうまるプロジェクト」についてです。生物多様性条約の第10回締約国会議（COP10）が愛知県名古屋市で2010年に開催されました。そこで採択された愛知ターゲット、この達成のために各団体の取り組みと、それから相互の協力を宣言するという仕組みです。2011年10月8日に発足いたしました。これまで、このにじゅうまる宣言というものを行った団体というのは、市民、企業等175団体、238事業になっております。そして、ことし、2014年10月には韓国において第12回となる生物多様性条約の締約国会議（COP12）が開催されまして、国際的にこの愛知ターゲットの進行状況について中間評価をする予定です。

今回の「第1回にじゅうまるプロジェクトパートナーズ会合」では、国内の愛知ターゲットの達成に向けた取り組み状況、また個別の目標ごとのこれまでの成果というものを民間からの視点で評価して、COP12で発信していくことを第1の目的にしております。また、本会合が愛知ターゲット達成に向けた活動団体が交流する機会として、それぞれの活動が相互に刺激あって日本の取り組み全体が拡大する場になることを期待しております。

本日の記念フォーラムを開催するにあたりまして、IUCN地域理事でスコットランド・ワイルド・ライフ・トラスト、自然保護ディレクターのジョナサン・ヒュー様、コンサベーションインターナショナル理事のパヴァン・スクデフ様には快く基調講演をお引き受けいただきまして感謝申し上げます。

また、このフォーラムを開催するにあたりまして、後援をいただいた環境省、国連生物多様性の10年日本委員会、大阪府大阪生物多様性保全ネットワーク、大阪府立大学の皆さまにはまず感謝申し上げます。また、開催にあたりまして地球環境基金、経団連自然保護基金から助成をいただきました。心から感謝申し上げます。私の開催の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

■後援団体挨拶

【橋本】 吉田さん、どうもありがとうございました。続きまして、共催団体を代表いたしまして、生物多様性協働フォーラム、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社、藤井秀延代表取締役社長よりご挨拶いただきます。よろしくお願いいたします。

【藤井】 ただいまご紹介いただきました、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの藤井でございます。本日は大変お忙しい中、「第1回にじゅうまるプロジェクトパートナーズ会合」ならびに「記念フォーラム」に多数の方にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。共催の生物多様性協働フォーラム事務局を代表いたしまして、ご挨拶を一言申し上げたいと思います。

本日より明日、両日にわたりまして開催されます「第1回にじゅうまるプロジェクトパートナーズ会合」、この会合は市民や企業、自治体、全国各地から保全活動を進める団体の人々が集まりまして、2020年愛知ターゲットの達成に向けて、その進捗状況を確認する会合とお伺いしております。2020年といいますと、ちょっと話が脱線いたしますが、昨年来世の中では東京でのオリンピック、あるいはパラリンピック、関西ではその翌年のワールドマスターズゲームズ、こうしたイベントを好機に日本の復興でありますとか、あるいは再生、また日本本来のすばらしさを世界に再発信しようと、こうした報道が繰り返されているところであります。しかし、地球社会、あるいは全世界にとって注目しなければならないこと、重要なことはほかにあります。それがまさに2020年、愛知ターゲットの達成ということでもあります。皆さんが取り組んでおられる生物多様性の保全と、人と自然が共生し、持続可能な社会をつくり上げていくための目標達成の期限ということでもあります。

これから始まります記念フォーラムでは、世界の地球環境、生物多様性の保全と持続可能な利用を進めるうえで、中心概念の自然資本がテーマになるとお聞きしております。その自然資本、当社では自然からの恵みを適正に利用するといった観点から関西の社会、歴史、文化と大変なじみの深いものであると考えております。



さて、その話に入る前に、当社が参加しております生物多様性協働フォーラムについて少し取り組みをご紹介したいと思います。生物多様性協働フォーラムは2010年にCOP10が開催されたことをきっかけに、関西でも生物多様性の保全と持続可能な社会づくりの機運を継続し、盛り上げていこうという目的で、2011年に兵庫県立人と自然の博物館、西日本自然史系博物館ネットワーク、そして三菱UFJリサーチ&コンサルティングの3者が中心となり立ち上げました。その後、関西各地の地方自治体や大学、市民団体の方々と連携いたしまして、兵庫、大阪、徳島、滋賀、京都等関西の各地域において過去7回のフォーラムを開催してまいりました。フォーラム事務局の一部に関わらせていただきまして、地域、地域でさまざまなテーマに取り組んでいく中で、都市と自然が密接に関わり、自然資本をうまく使ってきた関西こそ生物多様性や自然資本を広げていく場ではないかと考えるようになった次第であります。

また、当社は総合シンクタンクとして多岐にわたります社会的な課題に対する調査、課題解決に取り組んでおりますが、協働フォーラムの活動を通じ、生物多様性の保全は企業への経営提言や多様な政策提言をする中で、欠かすことのできないものであると考えております。今後も重要なテーマとして普及啓発活動や、関係者間の連携をさらに深めるよう取り組んでまいり所存でございます。

本日は自然資本の議論を全世界的にリードされている著名なお2人の専門家、ジョナサン・ヒュー氏とパヴァン・スクデフ氏から世界の最新動向について基調講演をいただき、続いてお2人を加えたパネリストの方々から日本での自然資本の展望についてパネルディスカッションを伺えると聞いております。この関西で、これからの日本に必要な生物多様性、自然資本をより活性化させていく議論が始まるのではないかと、私も大変楽しみにしている次第でございます。

最後に今回のフォーラムへのご参加が、皆さまにとりまして生物多様性とのつながりをさらに深め、自然資本に基づいた社会づくりを進めていく良いきっかけになることを願ってやみません。限られた時間ではございますが、最後までご参加いただきますようお願い申し上げ、共催者代表の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

■趣旨説明

【橋本】 藤井さん、どうもありがとうございました。それでは第一部を始めたいと思います。IUCN日本委員会、にじゅうまるプロジェクト事務局の道家様より、にじゅうまるプロジェクトの概要と、これまでの3年間の歩みをご紹介いたします。道家さん、よろしくお願いいたします。

【道家】 皆さん、こんにちは。IUCN日本委員会事務局の道家と申します。海外の人を招いてのナチュラルキャピタル（自然資本）に関する講演の前に、少しお時間を頂戴して、にじゅうまるプロジェクトが3年間かけてどこまで進んできたかについてお話をさせていただきます。

まず2011年10月にスタートした、このプロジェクトに込めているメッセージを皆さんと共有します。

「守られてるから守りたい。この星すべての生命。」38億年かけてあふれる創造性を発揮し、進化してきた生き物たち。そのすべてが環境に適応するための美しい答えだった。つながり合い、輪を描く生態系・種・遺伝子、それらの命から人は生活、産業、医療、文化、あらゆる分野で恵みを受け続けている。人は生き物たちに守られてきた。

しかし人は、たった数百年ほどでその豊かな多様性を大きく失おうとしている。傷ついた環境の中で生まれ育つことのできない多くの生き物たちがいる。人を含めたすべての生き物を支える生物多様性のために、今行動しなくてはならない。

私たちが大切にしたいのは感謝の気持ち。決して生物や自然を支配しようという人間のおごりではない。生物と自然がもたらす喜び、怒り、悲しみ、楽しみ、全てを畏敬とともに受け入れる心。たとえば洪水は災害であると同時に肥沃な土を運び、大地が生まれ変わる自然の仕組みであるように、自然は、そして生き物たちは人よりも大きい存在であり続ける。その

中にある恩恵を思うとき、私たちは何度でも利害を越えてひとつになれる。

にじゅうまるプロジェクト、それが生物多様性のためにひとつのチームとなり、始まる活動。2010年、私たちは世界中の人とともに2020年までに達成すべき生物多様性のための20の約束を結んだ。それは同時に人類の未来のための約束。にじゅうまるプロジェクトは、この20の約束を日本で守るために生まれた。

この名前にはメンバー同士が二重丸を送り合おうという意思も込められている。それぞれが約束に貢献するたびに二重丸をあげてたたえ合っていく。1人ひとりに二重丸。参加するみんなに二重丸。2020年に20の約束が二重丸で満たされている。そんな夢を描きながら、やるべきことはたくさんある。立場もできることも異なる。だけど同じ気持ちでどこまでもつながっていく。異なるからこそ強いつながりになる。既に行動してきた人も、これから動き始める人も一緒にやろう。

10年後、私たちは子供たちにこう言いたい。君が生まれたこの世界は約束を守る。さあ、力をつなげて生物多様性のための約束を守ろう。守られてるから守りたい。この星すべての生命。

これが2011年10月8日、私たちのプロジェクトがキックオフをしたときのミッションステートメント、つまり基本メッセージです。今でもこの思いで活動をしています。

にじゅうまるプロジェクトとはどんなプロジェクトか。それは愛知ターゲットを達成するために考えた仕組みです。COP10では大きな成果として「地球と生命の20の約束」と呼んでいる愛知ターゲットが採択されました。そして、あわせて日本の市民のイニシアチブもあって、国連生物多様性の10年が、2011年から始まることが決まりました。愛知ターゲットは人と自然が共生する社会というのを2050年の将来像に掲げています。そして2020年までに大目標が立てられています。「生物多様性の損失をとめるための行動を起こす」。テイク・アクション (take action)。これが2020年目標の大事なターゲットです。そして、2020年までに達成すべき20の目標があるわけです。

私たちはこの目標をすごい目標だと感じています。なぜなら地球規模、広域、あるいは国家規模、あるいは地域の規模で多様な主体—国連機関、国際機関、政府、自治体、企業、科学者、NGO、ユース、市民、第1次産業に関わるいろんな人たち、多様な人々がそれぞれの立場で生物の多様性を守ったり、向上させたり、賢明に利用したり、公正に利益を分かち合うための行動を20にまで単純化したものだからです。世界でやるべき生物多様性のいろんな取り組みを20にまで単純化し、193の国で合意した目標です。それをこの日本という地でまとめ上げたということについて大変誇りに思わなくてはいけないうし、この達成をやっぱり日本の市民社会として取り組んでいきたいと思っています。

で、どうすればいいかを考えました。まずは、忘れさせないということです。そして目標を実行するということが大事です。そのための課題と解決方策も考えました。20にまで単純化したと言いましたが、やっぱり20はなかなか覚えられない、多い数字です。ですので、誰が、どこで、どんな取り組みで、この20の目標に関わるかというのを見えるようにしていく「見える化」が大事です。合意されたのは、ターゲット（目標）です。ターゲットだけでは世の中は変わりません。ターゲットを行動に置きかえる。「行動の具体化」の仕組みが必要と考えました。NPO、NGOだけではこの目標は達成できません。企業も、自治体も、政府も、その他関係するみんなが参加するような「共通のシンプルな仕組み」が必要と考えました。最後に、それらの取り組みは世界の動きと連動させなければいけないというふうにも考えました。これらの解決に向けた方向性をひとつに体现したのが、「にじゅうまるプロジェクト」です。3年間、(独)環境再生保全機構地球環境基金、経団連自然保護基金という助成金の支援を受けてここまでやってこれてきました。この場を借りて感謝を申し上げます。



極力シンプルな参加型のプロジェクト、キャンペーンを考えました。最初のステップとして、愛知ターゲットや、にじゅうまるプロジェクトというのを知ってもらい、次のステップとして、自分たちの活動、仕事、その中で愛知ターゲットに貢献できるようなことが何かないか、自分の活動と愛知ターゲットとのつながりを考えてもらう。最後のステップとして、私たちの団体はこんな取り組みで愛知ターゲットに貢献しますという活動宣言をしてもらう、宣言を事務局に集めてもらうという取り組みをしました。そうすることで、愛知ターゲットに向けて頑張っている活動を、社会で認めていくような、そういう仕組みになりました。

二重丸にはいろんな意味が込められています。丸というのは日本では、Goodの意味合いがあり、ハーモニー（調和）の意味合いもあります。そういう意味ではダブルサークル（double circle）、2つ丸が重なるというのは世界にも通じるいいメッセージだと思います。2020年に達成の丸、Goodという評価、20の個別目標すべてに丸、Goodという評価、そして、世界を見据えて、現場で取り組む人々こそ、丸ではなくて、二重の丸をプレゼントしようと、そういうメッセージが込められています。誕生したのが2011年10月8日です。キックオフ当初は28の活動宣言がありました。現在238の愛知ターゲット達成に向けた宣言が集まっています。

団体の種類ごとの宣言数を見ると、決してNGOだけではなくて、最近では自治体とか企業といった人々から、教育機関とか、場合によっては第1次産業に従事するような農家の人たちとか、そういう人たちも自分たちの、たとえば田んぼの自然観察とか、いろんな取り組みを通じてこの愛知ターゲット達成に貢献していこうとしていることが分かります。見える化——宣言を集めることで、どんな目標が取り組まれているか、あるいはちょっと取り組みが少ないなという目標も明らかにできます。これによって次に私たちは何をすべきかという指針となります。地域ごとの取り組み状況も見えるようになっていきます。

3年間でいろんなことをしてきました。ここまでお見せしてきたコミュニケーションツールもこの3年の中でつくりました。ロゴとかパンフレットとか、皆さんにお配りしている愛知ターゲットのガイドというのもあります。愛知ターゲットガイドは生物多様性条約事務局がつくった公式解釈ののっとして愛知ターゲットを解説した日本唯一のテキストになっています。ニュースレターもつくっています。にじゅうまるに登録された数が、生物多様性国家戦略2011-2020や、第4次環境基本計画の達成を図る指標になりました。

私たちのメンバーの取り組みを、より大きな国連生物多様性の10年日本委員会というところで奨励する、認定連携事業という仕組みも生まれました。2014年2月段階で、31の取り組みが認定されています。

愛知ターゲットを田んぼというフィールドで行動に置きかえる水田目標とか、水田の行動計画というようなものも生まれて、ここを通じて60を超す宣言が生まれています。農家でもできることを提案して、参加協力と呼びかけ、活動の宣言が集まるという仕組みも生まれています。もっと一般の人々にも伝えるように折り紙を通じた普及啓発のキャンペーンも展開しています。全国各地でセミナーやワークショップ、そういったものも展開してきました。四国や大阪で特に実行しています。

みんなの取り組みを多くの人が見られるように共同展示をしたりしています。エコプロダクツという、日本最大の環境展示の場でも「生物多様性ナレッジスクエア」と名付けた共同展示も行ってきました。そういった活動を国際会議で世界に発信することも続けています。

今、生物多様性条約ではバイオダイバーシティチャンピオン（Biodiversity Champion）という、私たちとほぼ似たような取り組みが生まれています。私たちのアイコンにインスピレーションを受けて、グローバルなアイコンも生まれています。そういうような形で皆さんの活動宣言、それを集約する結果で世界、あるいは国の政策を動かすというということ

とが生まれています。

生物多様性条約事務局との覚書を結んだり、研究機関との覚書を結ぶ等して協力体制も着実に作り上げています。3年間という短い期間ではありますが、非常に多くの取り組みをしてきました。今回のCOP1という会議では、生物多様性の損失を止めるための効果的かつ緊急の行動をとるという愛知ターゲットの大目標に対して、どれだけ私たちが貢献できているか、次に何をすべきかというのを話す会議です。そしてこのフォーラムのナチュラルキャピタルというのも非常に大事な次の取り組みへのキーワードになると思っています。

以上、3年間の歴史をコンパクトにまとめて、説明させていただきました。この場には、にじゅうまるプロジェクトメンバーの方も多く参加しておられます。この場を借りて愛知ターゲットの活動宣言をありがとうございます。そしてまだ活動宣言をされていない団体の方もぜひこの機会にいろんな取り組みを知っていただいて、愛知ターゲットの達成に向けてみんなで一緒に行動できればと思っています。にじゅうまるプロジェクトの紹介をこれで終わりたいと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。